

令和 5 年度 県立大子特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	「持続可能で 選ばれる 地域共生型学校」 ・ 持続可能・・・安心で安全な教育環境を保持し、社会環境の変化に応じた教育を提供し続ける学校 ・ 選ばれる・・・地域資源を生かした特色ある教育課程をもち、質が高く魅力のある授業を提供する学校 ・ 地域共生・・・コミュニティスクール制度を生かし、地域づくりと学校づくりの一体的推進に取り組む学校					
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標			達成状況
1 「学びがい」の推進 (1) 成果 ・ 個別最適な学びのための積極的な ICT 活用 (2) 課題 ・ 学校研究による教科等横断的な学習指導力の向上		1 「学びがい」の推進	① 指導の個別化と学習の個性化による個別最適な学びの実現 ② 教職員の専門性向上のための自学共有型研修の充実 ③ 教科等横断的視点による継続的な教育計画の工夫改善			A
2 「働きがい」の推進 (1) 成果 ・ 地域人財との交流や協働機会の増加 (2) 課題 ・ 自立活動の充実に資するキャリアパスポート活用		2 「働きがい」の推進	① 積極的な地域貢献や奉仕活動等とおした心の教育の充実 ② 自立した生活者として必要な自己管理能力や規範意識の向上 ③ 社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力や態度の育成			B
3 「頼りがい」の推進 (1) 成果 ・ 積極的な情報発信と校内外の教育相談の充実 (2) 課題 ・ 各種危機対応マニュアルの見直しと継続改変		3 「頼りがい」の推進	① 健康・安全に関する能力及び実践態度を育成する教育の充実 ② 学校の危機対応における体制づくりと環境整備の強化 ③ 地域における特別支援教育のセンター的機能の発揮			A
4 「生きがい」の推進 (1) 成果 ・ 外部人財の活用によるスポーツ文化的体験の充実 (2) 課題 ・ 授業や各種行事への保護者・サポーターの協力推進		4 「生きがい」の推進	① 健康で豊かな生活をおくるための生涯スポーツの享受 ② 生活の質の向上と余暇の充実につながる文化芸術活動の充実 ③ 新しい発想で主体的な PTA 活動の推進による共育風土の醸成			B
評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策		重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	・ 子どもと教職員の生命・健康の保持 ・ 保護者や地域からの信頼確保の継続	・ 健康安全、防災、コンプライアンス等、学校危機に係る事案発生ゼロを校長が宣言し全職員に周知徹底 ・ リスク・クライシスマネジメントの徹底 (各種マニュアルの適宜改変、施設の安全点検と改修、避難訓練、安全教育、職員のコンプライアンス研修ヒヤリハット事例の積み上げ)		1―① 2―②・③ 3―①・② 4―①	A	A ○ヒヤリハット事例共有 ○学校危機に係る事案無 ○頼りがい推進に係る保護者評価高 ●事例の積上とマニュアルの見直し・改善 ◇防災・安全教育における ICT の効果的活用のための外部専門家活用

教職員の 育成及び 指導・監督	・教科等横断的視点での教科学習の教育計画策定力の向上 ・児童生徒の深い学びに資する授業実践力の向上と3観点での評価・改善。	・教務主任が単元配列表を作成、各学習指導担当が運用し、教科間が関連づいた学びに係る力量を向上 ・全教職員が担当教科の指導計画のPDCAを継続し、次年度の年間計画が年度末に完成 ・教育課程検討委員会を主体に、カリマネの進捗状況をPDCAで管理し、計画訪問等の機会に評価改善	1－③ 2－①・③ 3－③ 4－①・②	B	B	○教務主任を中心に単元配列表作成による教科等横断的な学習を実現。 ●自然体験活動をコアとし、各教科間を関連付けた年間単元計画の完成 ◇合わせた指導の内容整理と教科学習への改編 ◇教科の授業実践力に係る教師の専門性向上
対外活動	・学校運営協議会での提案の実現 ・地域・学校双方の協働実績の拡充	・学校運営協議会において作業部会からの具体的な連携・協働案の提示と熟議 ・熟議で具現化された提案内容を、チャレンジ2023との関連を鑑みて実施・評価・改善 ・提案事項を教職員に共有し、各自が教科等横断的に自分の授業に反映	1－②・③ 2－①・③ 3－①・③ 4－③	B	A	○学校運営協議会での提案内容を6回以上実施。 ○地域からの提案への協働4回実施。 ●連携事業の継続及びネットワークの拡充。 ◇学校運営協議会委員の専門性・地域性拡充。 ◇チャレンジ2024の趣旨理解と関連づけ

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない